

「バファローズが日本一」

プロ野球、日本シリーズ。ヤクルト・スワローズとオリックス・バファローズの対戦は、オリックスが4勝目をあげ、日本一になった。オリックスとしては26年ぶりというが、実は「バファローズ」としては初めての日本一である。バファローズの愛称は長年、近鉄球団が使っていた。しかし、18年前、球団が同じ大阪にあるオリックスに吸収されるような形で消滅した。吸収される際に、長年、近鉄ファンだった人たちに考慮したのか、オリックス・ブルーウェーブがオリックス・バファローズとして愛称だけが残った。

近鉄バファローズは、パ・リーグではリーグ優勝を4回果たしている。ただ、日本シリーズでは勝てず、一度も日本一にならずに球団が消滅した。実は日本一になるチャンスはあった。昭和54年、広島東洋カープとの日本シリーズでは、3勝3敗で第7戦をむかえた。近鉄は9回裏1点を追いかける展開となった。そこでノーアウト満塁の一打逆転サヨナラの好機をつかむ。しかし、広島の抑え投手は江夏豊選手。江夏選手の前に、得点をあげられず、日本一の夢は阻まれた。その投球は「江夏の21球」として、プロ野球史上最高の名場面の一つと言われている。

また、平成元年の日本シリーズ。対戦相手はセ・リーグの覇者巨人。3戦を終えた段階で、近鉄が3連勝と日本一に大手をかけた。あと4試合で1勝すればいい。3勝目をあげたあとの選手へのインタビューで、対戦相手の巨人に対して「まあ、たいしたことなかったです」と言い放ち、翌日の新聞には「今の巨人ならロッテの方が強い」というコメントが掲載されてしまった。これが巨人の選手に火を点けた。「世紀の大失言」とも言われ、その後、巨人が4連勝をし、またも日本一を逃した。

「勝って兜の緒を締めよ」。その戦いに勝ったからといって油断してはいけない。最後まで力を抜いてはいけない。自分たちが勝っていたとしても、対戦相手に敬意をもつことが大切、そんな教訓を与えてくれる。バファローズの優勝でいちばんほっとしているのは、バファローズで野球をやっていた選手かも知れない。

11月4日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 ある中学校の今年度の入学者の人数は、昨年度と比べて、男子は10%減り、女子は1人減ったので、全体として5%減りました。昨年度入学者の男子と女子の人数の比が4：5のとき、今年度の入学者数は男女合わせて何人ですか。